

～自転車で富士山を駆け上がろう！～
富士の国やまなし 第2回Mt.富士ヒルクライム
開催日が早くなりました。6月5日（日）に決定！

日本一の山富士山を舞台に昨年9月に誕生した自転車の本格的ロードレース「Mt.富士ヒルクライム」（参加者2414名）。今年は時期を早め、**6月5日（日）**に開催されることが決定しました。

コースは昨年と同じく富士北麓公園をスタートし、「富士スバルライン」を經由して五合目をゴールとする約25km（標高差約1270m）。第1回大会の完走率は99.1%。車種制限がないので、MTBやクロスバイクでも挑戦できます。

さらに昨年の経験を踏まえ、より多くの方が参加できるようにしました。

- 1) 電話でのエントリーOK
- 2) 中学生も参加OK
- 3) サバイブイベントでキッズもヒルクライムを体験

本レースのスタート後、同じ富士北麓公園から富士スバルライン料金所までの約1.9kmを走るイベント。一般・小学生以下のキッズ定員各100名。プチヒルクライムが体験できます。

またこの大会は、山梨県・静岡県制定の『富士山憲章』の趣旨に沿い、自然環境を守るキャンペーンも兼ねており、富士山を舞台とした自然環境保護意識の向上を参加者のみならず、広く社会にアピールする事を目的としています。昨年は参加料総額の3%、57万8460円を「富士山をきれいにする会」に寄付。会場ではごみ袋を配布し、ごみ持ち帰りを呼びかけました。今年もエコロジーな大会を目指します。

『富士山憲章』とは

1. 富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう
1. 富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
1. 富士山の自然環境への負荷を減らし、人との共生を図ろう。
1. 富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
1. 富士山の自然・景観・歴史・文化を後世に末長く継承しよう。



また、実業団選手との交流も大会の大きな楽しみの一つ。昨年、参加してくれた選手は真鍋和幸（ミヤタ・スバル所属）、橋川健（キナン・CCD所属）、唐見実世子（デルタ・キナン所属）、福島晋一・福島康司・井上和郎・清水裕輔（チームブリヂストン・アンカー所属）、別府匠（愛三工業レーシング所属）。【昨年は参考記録だが別府匠選手が1時間3分50秒で大会トップ】

第2回Mt.富士ヒルクライムによせて

「富士山の雄大さを実感しながら走破できるMt.富士ヒルクライムは、昨年の第一回目から大きな話題を呼び、当日は大変な熱気に包まれました。“富士スバルライン”は、標高差がある割には勾配が緩いので、レベルに応じてチャレンジ出来るのが特徴です。昨年は、「夫婦で初めてヒルクライムに参加するんですよ」という方や、「自転車買ったばかりです」といった初心者の方々からも、たくさん声を掛けて頂きました。

2回目となる今年は、安定した気候が期待できる6月初旬の開催となりました。皆さん一緒に走りましょう！」



今中大介氏
国内タイムトライアルを総なめにした後、94年にイタリアの名門プロチームと契約。97年に引退後、オリジナルブランドを設立。甲府市内にて自転車輸入会社を営む。日本のロードバイク界の象徴的存在。

今中大介氏
国内タイムトライアルを総なめにした後、94年にイタリアの名門プロチームと契約。97年に引退後、オリジナルブランドを設立。甲府市内にて自転車輸入会社を営む。日本のロードバイク界の象徴的存在。

昨年、アスリートクラス優勝者・寛五郎さん。名古屋市在住のパン職人29歳。高校三年生の時、ダイエットのつもりでペダルを踏み始める。



「優勝した後、たくさんの人から声を掛けてもらいました。“富士山で”という事が分かりやすいですね。僕のHP (<http://gorogo.jugem.jp/>)へのアクセスもぐっと増えました。ですが、彼女ができません・・・ただ、彼女がいない事が強さの秘密。1日を自由に使えて練習三昧です。練習が楽しい！実業団選手でない分、プレッシャーがないから無理がない。市民ヒルクライマーの第一人者・村山利男さん、また今年も富士山で勝負しましょう。」（優勝タイム・1時間5分45秒）

参加者申込みが2月1日（火）から始まっています（先着4000名）

インターネット・携帯サイト / <http://www.runtes.jp/>
専用ダイヤル / 03-3714-6409（平日9:30～17:30）

大会要項

- 主催 : Mt.富士ヒルクライム大会実行委員会(構成団体:山梨県自転車競技連盟・山梨県サイクリング協会・富士吉田陸上競技協会)
- 後援 : 環境省・山梨県・山梨県議会・富士吉田市・富士河口湖町・鳴沢村・山中湖村・忍野村・富士山憲章山梨県推進会議・富士山をきれいにする会・財団法人日本自転車競技連盟・財団法人日本サイクリング協会・財団法人富士吉田体育協会・富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合・鳴沢富士河口湖恩賜県有財産保護組合・山梨県観光物産連盟・富士五湖観光連盟・富士山五合目観光協会・山梨県自転車軽自動車協同組合朝日新聞社・日刊スポーツ新聞社・NHK甲府放送局・山梨日日新聞社・YBS山梨放送・UTYテレビ山梨FM富士・FM甲府
- 協賛 : 全日本空輸株式会社・富士急行株式会社・神奈川クリニック眼科CR-LASIKセンターほか
- 協力 : NPO法人コラボレーター・エコサイクルマイレージ(<http://ecomile.jp/>)
- 企画協力: ランナーズ/月刊ファンライド
- 競技内容: 富士スバルライン(正式名称・富士山有料道路)の登坂コース、約25kmでのタイムトライアル
- 参加定員: 4000名(先着順)
- 参加料 : 一般/8000円、中・高校生/6000円(環境保全活動寄付、富士スバルライン通行料、傷害保険代含む)
- 参加資格: 中学生以上の健康な男女、制限時間内に完走できる自信のある人

Mt.富士ヒルクライム大会ホームページ

<http://www.funride.jp/event/fhc/>